



楽々亭通信

第10号
令和3年6月1日号

発行:NPO法人没イチの会・京都

5月の楽々亭は 開催出来ませんでした

『歎異抄』

本願寺派布教使

安堂芳雅

次回から、『歎異抄』の言葉を通して、様々な思いを共に語り合うことになりました。

不思議なことですが、『歎異抄』を読んでいると、まるで「ドラマ」を見ているように様々な場面が浮かんできます。(私はこれが『歎異抄』の最大の魅力だと思っています。)

映画やドラマはもちろんです、背景を知っておくとより深く楽しめるので、今日は『歎異抄』について簡単にまとめてみました。



これからのみなさんのワクワク、ドキドキの役に立てればと思います。

◆【誰が書いたのか? Who?】

↓『歎異抄』には著者名が記されていないので、著者を確定することはできませんが、現在は「唯円」というお弟子さんだとされています。唯円さんは三十五歳を過ぎた頃に八十半ばの親鸞さまにお会いされました。

◆【いつ書かれたのか? When?】

↓約七十年の生涯を生きた唯円さんの最晩年に書かれたといわれています。

西暦では一二八八年ご

ろで、この数年前に平氏が北九州に逃れ、壇ノ浦で滅びています。

◆【なぜ『歎異抄』は書かれたのか? Why?】

↓親鸞さまがお亡くなりになった後、その教えを自分勝手に受け止め、誤解する人たちがどんどん増えていきました。

そんな中であって、「どうか、親鸞さまの教えを正しく受け取ってまことのすくいに出あって下さい。」と、『歎異抄』は書かれました。

この唯円さんの思いは、親鸞さまの教えとの「異なり」を「嘆く」、「歎異抄」という書名からも伝わってきます。

◆【『歎異抄』はどれぐらいの長さなのか?】

↓文字数にすると一万二千字、四百字詰め原稿用紙だと三十枚ぐらいの短さ

です。

本当に小さな書物ですが、『歎異抄』にはとても広く深い宗教世界が開かれてあります。

今まで、お寺のご法座や勉強会で『歎異抄』をいただくことはありましたが、一般の方々と読んでいくのは初めてです。

◆【一緒に「浄土真宗」のワクを取りはらって、ゆっくり読んでいきましよう。皆さんがどのように『歎異抄』の言葉を味わわれるのか、とても楽しみにしています。

●仏さまのお姿の特徴

お経によると全部で三十二の特徴があります。六番目は「手足柔軟相」(しゅそくにゆうなんそう)

仏教読みはやっかいで、パソコンで「にゆうなん」と打っても絶対にでてこ

ないのですが、「じゆうなん」これなら一発ででます。「柔軟剤」の「柔軟」で、意味も、やわらかくしなやかです。

「柔軟」の反対語を辞書でひいてみると、硬直、強硬、頑固でした。ゴツゴツ、ゴワゴワという硬く冷たい感じがしますね。

私が見た、私が聞いた、私が信じた、と頑なに「私」の硬いカラ(我執)に閉じこもっている私たちは、仏さまのやわらかく、しなやかな御手(みて)でしかすくわれないのです。



松竹のプロデューサーとして

その2

映画プロデューサーの反乱

「征く河の流れは絶えずして、しかも元の水にあらず、よどみに浮かぶうたかたは、且つ消え且つ結びて留まる所知らず……」

これは私の好きな古文書の一節です。人生種々な浮き沈みがあり、如何に堪えるかが非常に大事なことであると思います。

振り返れば私が担当しました映画部、テレビ部について、「シユレー」2百億円、「必殺シリーズ」の映画で60億円、「鬼平犯科帳」で70億円等々の成績を上げ、社内を大きな顔をして闊歩しておりました。

調子に乗ってエジプトとの合作映画を作り予算50億円は簡単に上がると自負していた所、結果は3億円しか上がりず役員会で白い目で見つめられ、下を向いていたこともありました。

しかし、私を支えてくれた人達が多く居りましたので、なんとか支持を続けてくれましたが、他の人は一作でも会社に迷惑をかけた事、そして私を外したいと思つて居た社長と専務（社長の息子）のいやがらせで、ごちやごちや言われ、私はこの会社が嫌になり、こちらから辞表を叩きつけて会社を辞めました。

ところが後日、私を支持してくれていた役員の一団が社長と専務を糾弾して、私の辞表を取り下げさせたという、新聞沙汰になる様な事件が起き、再度戻つて欲しいと再三連絡がありましたが、私も年齢もいつており、輝かしい実績のまま去る方が自分に分かっていると思ひ、何の後悔もなく辞めました。少々美しすぎる姿だと人は笑つてましたが、これで良かったと思つております。

現在、歌声喫茶に参加させて頂き、また楽々亭にも入らせてもらひ、私が望んでいた生活を見出し、年老いて充実した月日を過ごさせていただいております。

す。

籠谷弘のおじ様に心から感謝しておる日々で御座います。末永くごひいきを!!

櫻井洋三

会員 趣味のホームページ

より その7

ともしび通信43号の続き

「コスモス短歌」 石田禎子

雨あがり木々しつとりと緑まし 朝の匂いを静かにうけて

はやばやと梅雨に入りしこの 5月 次お日さまにいつ会えるかな

「あじさい川柳」 藤本花枝

玄関の招き猫今うしろ向き

判おせば何やら空が高くなつた

メールきてそうやわたしの誕生日や

訃報

没イチの会・京都會員の
前田美沙様
が4月23日にお亡くなり
になりました。
心よりご冥福をお祈りいた
します。



楽々亭 第11回 6月の予定

5月に引き続き、6月の楽々亭も
休会といたします。
開催を楽しみにしておられた方には
大変申し訳ありません。

楽々亭通信

発行元：NPO法人 没イチの会・京都
住所：京都市西京区大原野東境谷町一丁目1番地4-701
TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328
MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい想いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。